

H27年6月 第20回日本緩和医療学会学術研究大会

示説発表

腹水濾過濃縮再静注法 (CART) により患者・家族の満足が得られた難治性腹水を有する膵臓がん患者の一例

社会医療法人 社団 カレスサッポロ 時計台記念病院 看護部 吉田 奈美江

社会医療法人 社団 カレスサッポロ 時計台記念病院消化器センター 長岡 康裕

社会医療法人 社団 カレスサッポロ 時計台記念病院リハビリテーション部 渡邊 真樹、
青木 景資

【はじめに】がん性腹膜炎による難治性腹水は、腹部膨満感などにより QOL を著しく低下させる。腹水濃縮再静注法 (以下 CART) は腹水を採取し濾過濃縮後、自己蛋白を再び体内に戻す治療法であり、自覚的苦痛の軽減や循環血漿量維持により全身状態改善を期待できる。今回、オピオイド使用による症状緩和やケアよりも CART 施行により患者と家族の満足が得られ、症状日常生活統合スコア (以下 IDAS) を用いて検討したので報告する。

【事例】54 歳女性、膵臓がん、心窩部痛と食欲不振があり肝機能障害、黄疸を認め膵体部がんの悪性胆管狭窄、多発肝転移と診断。化学療法目的で当科入院となったが CRP 上昇により 2 クール目で中止。入院時日常生活ほぼ自立、NRS5/10 の背部痛があったがオピオイドでその後コントロール良好となった。入院時より腹水を認め、腹部膨満感、体重増加が著明となり第 21 病日より 1 回/週 CART 開始、第 49 病日より 2 回/週の実施となり最終施行は死亡退院当日の第 79 病日、計 14 回施行した。

【考察】CART は難治性腹水管理において腹水除去と共に自己蛋白再利用によって自覚症状の軽減、栄養状態の維持において有用であった。本症例の患者・家族はオピオイド使用やケアよりも CART 施行を強く希望され、希望に沿うことで満足が得られ IDAS スコアの改善がみられた。CART は QOL の改善に有効である一方で、いつまでどの程度継続するかは全身状態や予後を含めた総合的評価が必要であると考えられた。